



かけはし

令和4年(2022年)

長沢中
学校だより

3月24日

発行責任者

NO. 16

校長 星野 嘉朗

学校教育目標 命一杯に生きる ～向上心 貢献心 自立心～

深く考え行動する生徒



芽吹き季節となりました。まだ、暖かいと思うと、急に寒さが戻ってきたりと、寒

暖差が大きい日が続きますが、学校の桜もつぼみの色が日に日に赤くなってきました。開花ももう少しです。春は一步一步使づいてきています。

オミクロン株の波は学校にも来ています。校内での感染拡大ということは幸いにもありませんが、陽性者や濃厚接触者が多くはありませんが教職員、生徒も含めいました。

3月21日でまん延防止措置等重点地域の指定は解除となりますが、年度末や新年度入学式に向けて、まだまだ注意しながら生活をする必要がありますし、学校としても対策をしっかりと取りながら、修了式、始業式を迎えなければならないと、あらためて気を引き締めているところです。

春休みは開放感が大きくなりやすいですが、感染の収束には至っていませんので、生徒・保護者の皆さんも十分注意をしながら新年度を迎えられるよう、ご協力をお願いします。

ことばの大切さを考えながら、

人生の難関を越える

3月9日、149名の3年生が無事に卒業証書を手に入れました。少し肌寒さはありませんでしたが、春の日差しに恵まれた式でした。残念ながらコロナの影響で、今年度も式への参加は卒業生、保護者、教職員、教育委員会に限

られ、在校生の参加は生徒会役員のみで、昨年同様に簡素化された式となりました。

学校長の言葉の中で、「関」という感じを示して、次のような話をしました。

『人生にも関所があります。哲学者の安岡正篤さんは「人生はしばしば出会間をわねばならぬ、関所をいくつも通り抜ける旅路である」と、語っています。「関」という人磨く通過門を越え新しい世界を切り開いてほしいと願います。

その上で皆さんの記憶に留めておいてほしい、福島智さんという方がいます。

福島さんは視力も聴力も全くない全盲ろうという障害を持っていながら現在、東京大学の教授です。日本のバリアフリーの研究者で、世界で初めて常勤の大学教員となった方です。

福島さんは三歳で右目を、九歳で左目を失明して全盲となりました。本人は生まれつきが楽天的と言う通り、視力を失っても音の世界がある。耳を使えば外の世界とつながることができると考え、実際に音楽やスポーツや落語に夢中になっていました。

しかし、さらなる過酷な試練が全盲の少年を襲います。一四歳のころから右耳が聞こえなくなり、一八歳、高校三年生の春先には残された左耳も聞こえなくなってしまったのです。光と音から全く閉ざされた世界に一人となったのです。

福島さんはその時の状態を「真っ暗な真空の宇宙空間にただ一人で浮かんでいる感じ」と表現しています。

「なぜぼくだけこんなに、くるしまなければならぬのか、これから先自分はどうやって生きていけばよいのか」不安、恐怖、絶望を抱え深く悩み苦しむ日が続きました。

そんなある日、福島さんのお母さんが福島

さんの指を点字タイプライターのキーに見立てて言葉をかけてくれたのです。これが大きな出来事でした。この時、福島さんは真っ暗な宇宙空間から人間の世界に戻ってきたのです。福島さんは言葉によって真っ暗な音のない世界から戻ったのです。そして、努力をし、多くの難関を越えて特別支援学校から大学へ進学し、大学の教授となりました。

視覚や聴覚のない福島さんだからこそ、指点字で示される言葉の重さや大切さを、私たち以上に大きく受け止めることができたと言えます。

すべての人の命は言葉とともにあります。言葉のないところに人間の命はありません。福島さんは身をもって、そのことを私たちに示してくれています。

絶望の淵から人間を救うのは言葉であり、どのような人生の難関も言葉という通行証を手にすることで、乗り越えることができるということです。…（中略）…

今、国際社会は大きく揺らいでいます。ロシアとウクライナの紛争では一般の市民にも多くの犠牲者が出て、ウクライナから避難しようとする人々が大変な思いをしている様子が、連日報道されています。私たちにとっても、遠く離れた国の出来事では済まされません。そのような中で、世界の多くの国の市民が自ら「戦争反対」「平和を！」という言葉であげて連帯しようとしています。私たちは言葉でこそつながることができるのです。このような時だからこそ、自分の心に耳を澄まし、人の心に響く言葉とはどんな言葉か、そしてどんな場面でその言葉をかけるのか考えてください。…』

少し長くなりましたが、1・2年生の皆さん、自分の言葉を大切にしていますか？考えながら言葉を使っていますか？その言葉によって救われ、難関を乗り越えられる人もいます。

今、このような時だからこそ、言葉を考えながら使ってほしいと思いますし、大切に

いかねばならないのです。4月からの学校生活、言葉を大切にしながら、一步一步進んでいきましょう。

今年度最後の給食は

チンジャオロースー？…

9月29日から始まった中学校の完全給食。3月18日が長沢中学校では、今年度の最後でした。



最初はなかなかうまく盛り



付けられず、時間もかかっていましたが、1年生はさすがに小学校での経験が生きて、早い段階で、

どンドンと自分たちで動いて始められるようになりました。2年生は、やや苦戦を強いられて、配膳のバタバタ感がなかなかなくな

ないまま年度末を迎えてしまった感じがしま



す。自分たちで考えて盛り付けられるように…。



4月13日から来年度は給食が始まります。新1年生に、いいところを見せ



られるかどうか。新3年生は同じ棟になります。もうバタバタして「〇〇がたりない～！」などと言っ

てはいられませんね。整然と行動する姿を見せてください。